



2022年6月3日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学アート・センター主催  
「2022年度アート・アーカイヴ資料展XXII 痲瘡譚  
～生んだもとの生命からすでに切りはなされてあるを」展を開催  
(2022/7/4-29)

今年は土方巽の舞踏の代表作<痲瘡譚>公演から50年です。土方巽は、1972年に「東北歌舞伎」と銘打って、長期公演《四季のための二十七晩》で5作品を発表しました。本展では最初の作品<痲瘡譚>の記録映像をはじめ、貴重な関係資料と土方巽アーカイヴの活動成果を展示します。<痲瘡譚>で舞踏の革新を図り、世界のダンス史に新たな1ページを印した土方巽の舞踏とその思想を検証しつつ、このメモリアル年にあらためて「舞踏とは何か」を問いかけます。

### 1. 会期・会場

2022年7月4日（月）～29日（金）※土日祝休館

開館時間：11：00～18：00

会場：慶應義塾大学アート・スペース（三田キャンパス南別館 1階）

入場：無料

展覧会ウェブサイト：<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/hijikata2022/>

※新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて会期や入場方法などが変更になることがあります。最新情報は上記、展覧会ウェブサイトをご確認ください。

主催：慶應義塾大学アート・センター

協力：NPO 法人舞踏創造資源、土方巽アスベスト館

### 2. 展覧会概要

今年は土方巽の舞踏の代表作<痲瘡譚>の公演から50年のメモリアル年です。そこで今回の展示は、<痲瘡譚>をめぐって、当時の土方巽の創作への試行に迫ります。

第二舞踏宣言とともに、舞踏の転換を図り、新たな舞踏世界を提示しようとした、土方巽の文字通りのチャレンジとはどういったものだったのか。限られた展示空間での限られた展示物でもって、1972年の記念碑的な公演《四季のための二十七晩》の全貌をうかがうことは叶いませんが、その核心を<痲瘡譚>での土方巽の踊りに求めます。

時代の転換期を見すえて、舞踏がどうあるべきかという土方巽の1972年の問いかけにどう応えるか。50年後の現在、コロナから痲瘡へと遡及しつつ、「舞踏とは」の問いかけの反復です。

土方巽（1928-1986）

暗黒舞踏の創始者、土方巽は秋田県に生まれた。59年〈禁色〉を発表後、1968年〈土方巽と日本人 -肉体の叛乱〉を演出・振付・出演。暴力性とエロチシズムとユーモアにあふれ、聖性にまで昇華された舞台となる。1972年《播義大踏鑑第二次暗黒舞踏派結束記念公演・四季のための

二十七晩》を作・演出・振付・出演。細江英公による写真集『鎌鼬』以来の東北回帰を集大成するテーマと内容で「東北歌舞伎」と称した。観客も8500人以上を動員し、舞踏史上記念碑的な公演となる。三島由紀夫や澁澤龍彦から高く評価されたほか、写真家・細江英公やウィリアム・クラインらの被写体となり、また俳優として寺山修司演出の舞台に立つなど様々な分野の第一線で活動する作家たちの作品に参加したほか、国際的な知名度も高い舞踏家である。



撮影：鳥居良禅  
慶應義塾大学アート・センター/NPO 法人舞踏創造資源

### 3. 出品作品（予定）

- ・映像上映 大内田圭弥監督《燐燐大踏鑑第二次暗黒舞踏派結束記念公演・四季のための二十七晩》<疱瘡譚>より土方ソロシーン
- ・<命の実感プログラム--土の土方と水滴の時間>+鶴岡でのインスタレーション記録映像
- ・《燐燐大踏鑑第二次暗黒舞踏派結束記念公演・四季のための二十七晩》<ギバサン>よりあざみの衣裳

※実際の展示作品とは異なる場合がございます。ご了承ください。

※関連イベント等については、展覧会ページにてご確認ください。

<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/hijikata2022/>

#### 4. 会場案内

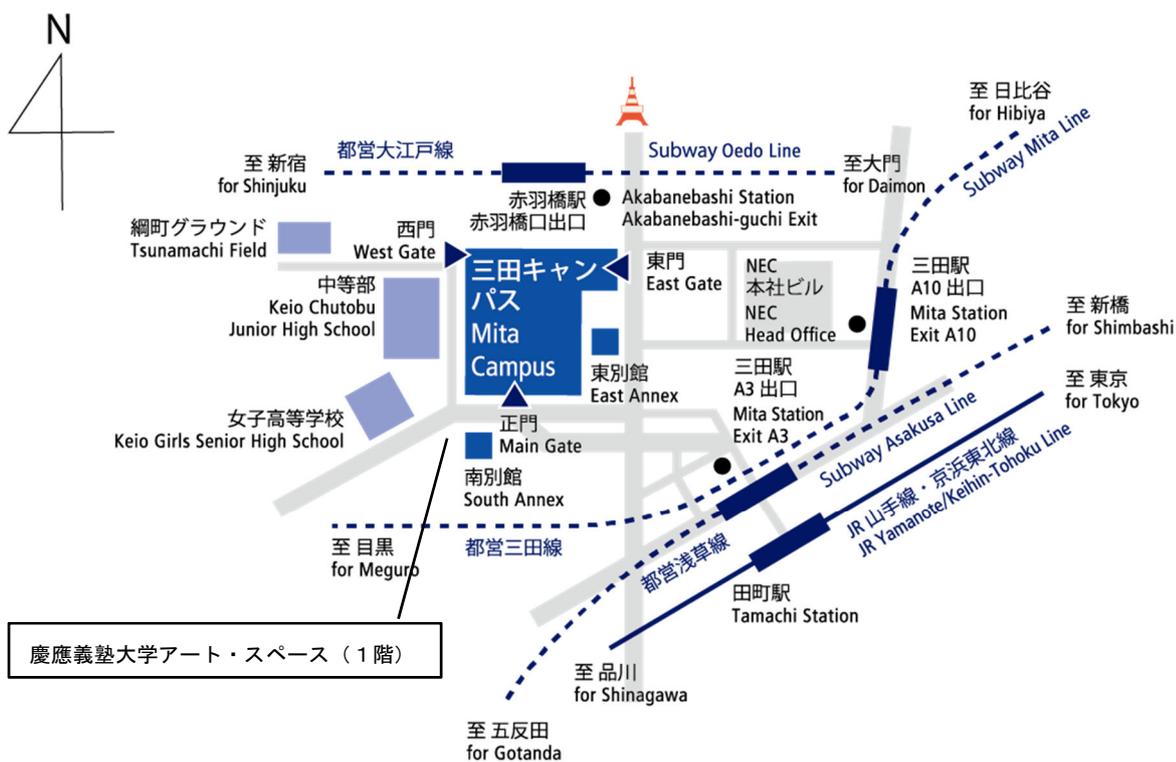
会 場：慶應義塾大学アート・スペース（三田キャンパス南別館 1 階）

住 所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

交通アクセス：田 町 駅（JR 山手線／JR 京浜東北線）徒歩 8 分

三 田 駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩 7 分

赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩 8 分



※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社教育部、文化部等に送信させていただいております。

#### 【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（豊田）

TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

E-mail : m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>